

## I 実践

## 1 研究主題

互いに思いやり助け合う児童の育成を目指した人権教育の実践

## (1) 主題設定の理由

本校は、『確かな学力、たすけあう心、たくましい体』をもった調和のとれた児童の育成」を教育目標として掲げている。それを受けて、人権教育では、「互いに助け合い、仲良く活動できる子どもを育成する。自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子どもを育成する。」の二つをを目標としている。

人は、様々な人とかかわりながら、日常生活を送っている。その中で、一人一人がかけがえのない存在であること、そして尊重し合うことの大切さを理解することは大切である。

そこで、地域との人とのかかわりや身体に障害がある人との交流を通して、相手の立場を考え、思いやりや助け合いの精神をもって行動することを身につけさせるため、本主題を設定した。

## (2) 研究の内容

- ・ 道徳や特別活動、総合的な学習の時間における人権教育の充実
- ・ 豊かな体験活動の展開

## 2 実践内容

## (1) 道徳の時間の取組

道徳の時間では、児童の発達段階や実態に合わせ、人権教育との関連が深い内容項目を取り上げ、授業に取り組んだ。また授業参観時には、全クラスで道徳の授業公開（年に2回）を実施し、保護者への人権意識の啓蒙を図った。

## (2) 総合的な学習の時間や生活科における体験的な活動

## ア 総合的な学習の時間において（第4学年）

4年生では、総合的な学習の時間のテーマが「人にやさしい宮田を考えよう」であることから、様々な人の立場に目を向けさせ、共生を図る資質や能力を身につけられるようにと考え、様々な障害の疑似体験、幼稚園生やお年寄りとの交流を実施した。

## (ア) 疑似体験を通して

- ・ 車イス体験
- ・ アイマスク体験
- ・ 点字体験

## (ウ) 実際にその立場の方のお話を聞くことを通して

- ・ 目の不自由な方
- ・ 耳が不自由な方
- ・ 体が不自由な方
- ・ 地域のお年寄り

## (イ) 幼稚園生とのふれあいを通して

- ・ 隣接の宮田幼稚園で幼稚園生との交流

## イ 居住地交流の実践（第3学年）

3年生では、特別支援学校に通う児童との交流を通して、それぞれのよさに気づき、障害や個性を理解して、優しく接しようとする気持ちや、今までの経験をもとに自分のできることを見つけて実践する態度を育ててきた。

## ウ 地域のお年寄りとの交流

## 「お正月あそびをしよう」（第1学年）

地域に住むお年寄りから、昔からの遊び（お手玉、けん玉、あやとり、こま回し、めんこ、竹とんぼ等）を教えてもらいながら一緒に遊び、交流を深めた。

### (3) その他の活動

#### ア あいさつ運動

毎朝、事務局委員会が中心となり、昇降口でのあいさつ運動を実施した。また学期に1回、「さわやかマナーアップ週間」として、本校職員や高学年の児童が学校の正門や非常門、昇降口であいさつを呼びかけたり、駒王中学校の有志の生徒や宮田小学校 PTA の方の協力を頂き、自宅前や通学路でもあいさつ運動を実施したりする等、地域が一体となって人間関係づくりの基礎となるあいさつの活性化に努めた。

#### イ 異学年集団（縦割り班活動）の交流

本校では、毎月第3週の水曜日の宮田っ子タイム（ロングの昼休み）において、1年生から6年生の縦割りの集団（18集団）を編成し、6年生がリーダーとなって計画をたて、異学年と一緒に楽しく遊ぶ活動を行った。そのことにより、6年生が1年生のお世話をしたり、学年を超えて親しみをもって接したりすることができた。



#### ウ 事務局委員会による「校内年賀状交換」

児童会の事務局委員会が中心となり、校内で年賀状交換を行った。12月中に年賀はがきを印刷して各学級に配布し、ポストを昇降口に設置して出したい相手のポストに入れるようにした。12月の宮田っ子タイム（縦割り班活動）の時にも年賀状を書く時間を設け、年賀状を通しての交流が異学年ともできるようにした。書いた内容の確認作業を事務局委員会が行い、相手を思いやった内容になるように配慮した。



### 3 成果

- ・ 道徳の時間においては、児童の実態に合わせて計画的に実施することにより、自分の生活をふり返り、相手の立場になって考える事の大切さや相手を思いやる心の大切さに、気づくようになってきている。
- ・ 障害のある方に実際に話を伺うことで、大変さだけでなく、工夫次第で健常者と変わらない日常生活を送ることがよく理解できた。また点字や車イスなどの福祉体験を通して、障害のある方の努力や生活上の工夫について、さらに理解を深めることができた。
- ・ 異学年交流では、登下校の際に高学年が低学年を面倒見るだけでなく、休み時間も中・高学年が低学年を誘って遊ぶ姿が多く見られ、異学年で遊ぶことが自然に行われるような下地作りになっている。また、高学年としての自覚をもち、低学年の児童に優しく面倒を見たり遊びを教えたりするなど、思いやりの心を育むことができた。

### II 今後の課題

児童が身につけた「互いに思いやり助け合う」態度をより確かなものにするため、これからも、総合的な学習の時間や道徳の時間等を活用する必要がある。その際には、それぞれの教科の関連に留意し、授業を改善・工夫していきたい。

また、本校の取組を広報することで、学校と地域が一体的な人権教育の推進に取り組めるよう目指していきたい。